治8年一日市学校開校。同11年郡区町村編制法により南秋田郡の村となり、近隣9か村の戸定役場を当村内に設定。同22年町村法施行後も単独の自治体として存続。

〔近代〕一日市村

明治22年～大正14年の南秋田郡の自治体名。面積4．09平方キロメートル。戸数293・人口1，753。地租対象地は田225町・畑18町・原野15町歩余。同24年馬場目川河口部を当村有志が開発しはじめ，葭谷地事件発生。同35年国鉄奥羽本線が開通し、五城目駅（大正15年一日市駅、昭和40年八郎潟駅と改称）開業。当地方の交通の要衝として発展する基礎となる。翌年一日市と五城目町との間に乗合馬車運行（大正11年軽便鉄道となる）。大正14年12月1日に町制を施行。

〔近代〕一日市町

大正14年～昭和31年の南秋田郡の自治体名。当時の戸数470・人口2、600。大正15年～昭和3年一日市小作争議があり、この頃当町の耕地中70％が不在地主の所有地。昭和6年一日市映画劇場開設。同20年4月18日一日市大火災があった。農地改革により、当町分では209町歩余が開放。5町歩以上の小作地を開放した地主は伊藤徳治以下6名。同31年面潟村と合併、八郎潟町成立。一日市は地区名として地名をとどめる。合併時の戸数731・人口4、274、田316町・畑4町歩余。

〈地誌編〉ひといち　一日市　〒018-16

〔成立〕昭和31年9月30日〔直前〕一日市町

〔世帯〕1、175〔人口〕4,708

町の南部。国鉄八郎潟駅があり、商店街･住宅の密集する町の中心地帯。南は馬場目川を境に五城目町、西は東部承水路を経て大潟村に接する。江戸期以来の宿場町として発達。国道7号と奥羽本線が東部を貫通。八郎潟駅は急行停車駅、大潟村と五城目町の玄関口でもある。中世末期に三浦氏の構築した押切城址が西方の蒲沼に存在。曹洞宗花嶽山清源寺･一日市神社がある。八郎潟町役場･秋田県内水面漁業指導所･八郎潟小学校･湖東消防八郎潟分署･八郎潟派出所･八郎潟郵便局･一日市農業協同組合･面潟農業協同組合･一日市面潟カントリーエレベーター･八郎潟町浄水場･衛生センター･老人想いの家･商工会館などが集中。県無形文化財指定の願人踊(5月5日)は一日市を舞台とし､また8月に行われる一日市盆踊りは県内3大盆桶りの1つとして有名。

（1980.3出版　角川日本地名大辞典　5　秋田県）

## 12．ひといち

街道は、夜叉袋村を抜け東側を走るＪＲ奥羽本線と並行しながら一日市村に入ります。集落に入ってくると現大潟村へ向かう道が出ています。そこを過ぎ中央通りに入ると信号から左に分かれている道があります。この道はＪＲ奥羽本線、国道７号を越え川崎村を通って五城目村へ向う道です。ＪＲ奥羽本線を越えたところに延文の板碑があります。

街道は信号からそのまま南に向かって直進します。まもなく左手に一日市神社の看板がありますので、そこから小路に入っていくと一日市神社が鎮座しています。また中央通り中程から右側の道を入っていくと清源寺があり、境内には明治天皇行在所記念碑があります。ここ中央通りには、御役所・本陣があったところで、伝・荻津勝孝「秋田街道絵巻」にも「御本陣」の記載があります。西側に広がる田園の中には、旧蒲沼村跡、旧押切村跡があります。

やがて中央通りを過ぎた街道は左にカーブして馬場目川を渡る渡船場の下川原に着きます。ここから大川村へ渡ると、そこには木役所（現在の桜田家付近）がありました。道はここから二つに分かれ、南進する道は今戸・小今戸を貫き浜井川村へ通じる旧道で、街道はここから南東に向きを変えてすすみます。

ＪＲ奥羽本線を斜めに横断し、やがて現五城目町区内に入って国道７号に合流して、ＪＲ奥羽本線と並行しながら浜井川村（現井川町浜井川）に向かって南進します。

一日市村